

指標一覧（B・C評価のみ抜粋）

基本方針	指標	評価※	現状値	目標値	外部要因	今後の取組の方向性
基本方針1 脱炭素型のまちを目指します	【成果指標】					
	市内の温室効果ガス排出量	B	935.9千t-CO2 (2023年度)	629.3千t-CO2 (2030年度)	・電力排出係数の低下（電源構成の変化及び定義変更）。基準年以降、ゆるやかに下がってきており、排出量の低減に寄与している。※基準年度比較	・協定先事業者と連携し、ゼロカーボンシティ実現の推進の取組、特に環境教育の実施を図る ・エコハウス設備設置助成金を継続して再エネ機器の導入を図る。 ・運輸部門の排出削減の取組として、ZEV及び給電設備を購入する市民に対し、その費用の一部を助成する ・公共施設にEV充電器を設置し、ZEVの普及を促進する ・公共施設の屋上に太陽光設備を設置することで再エネを活用し、排出の抑制に務める ・再エネ電気を使用することで環境負荷の低減を図る
	市内のエネルギー消費量	B	10499.6TJ (2023年度)	8354.5TJ (2030年度)	・2023年5月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行 ・夏季（7月～8月）の節電要請 ・気候要因（暖冬） ・エネルギー価格の高騰による節電行動の促進	・省エネ行動等の啓発の取組として、環境まつりなどにおいて6者協定事業者の協力のもと省エネハンドブックなどを配布し啓発実施する ・2027年度を目途に公共施設照明のLED化を進めていくことにより、市自らが率先し、排出の低減に取り組む
	民生家庭部門のエネルギー消費量	B	3495.0TJ (2023年度)	2726.6TJ (2030年度)	・人口…0.1%（329人）減 ・世帯数…0.6%（747人）増 ※共に2022年（前年）比	・エコハウス設備設置助成金を継続して省エネ設備の導入を図る ・省エネ行動等の啓発の取組として、環境教育等を実施する
基本方針2 人と自然が調和して豊かな恵みが得られるまちを目指します	【参考指標】					
	府中水辺の楽校事業 イベント参加人数（累計）	B	61人 (2025年度)	350人 (2030年度)	・河川工事に起因するイベントの中止	・河川環境の変化に応じた活動内容の見直し ・運営協議会メンバーや協力団体の特色を活かした事業継続 ・中学生サポーターの参加拡充
	小・中学生に対する自然環境教育の実施件数	C	7回 (2025年度)	20回 (2030年度)	・天候や河川工事に起因する事業の中止 ・小学校からの学習支援依頼の回数の減少	・イベント予備日の設定 ・屋内イベントの企画 ・学習支援プログラムのパッケージ化による学校側負担の軽減等を検討
	農地面積	B	117ha (2025年度)	110ha (2029年度)	・相続税の支払いの負担や農業後継者不足による要因からの農地転用	・現状の取組を継続して実施しつつ、より効果的な農地保全策について調査・研究する

基本方針	指標	評価※	現状値	目標値	外部要因	今後の取組の方向性
基本方針3 循環型のまちを目指します	【成果指標】					
	市民1人1日当たりの燃やすごみ排出量	B	1人1日382 g (2025年度)	1人1日356 g (2027年度)	・特になし	・引き続き各種取組を一体的に推進していく
				1人1日353 g (2032年度)		
基本方針4 安全・安心・快適に暮らせる文化的なまちを目指します	【成果指標】					
	水質、大気、騒音・振動の環境基準適合率	B	91.7% (2025年度)	100% (2029年度)	・騒音については、幹線道路沿道において交通量や道路構造等の影響を受け、環境基準の超過が継続している地点が見られる。なお、令和7年度は測定機器の不具合により一部地点で欠測が生じた ・水質については、調布市境における大腸菌数の超過が継続しており、採水地点の特性や周辺環境の影響が考えられる	・今後も、水質、大気、騒音・振動の測定を継続し、市内の生活環境の状況を的確に把握する ・騒音については、幹線道路沿道における基準超過が見られる地点について、道路管理者、東京都及び国等の関係機関と情報共有を行い、引き続き状況把握を行う ・水質については、調布市境における大腸菌数の超過状況について、採水地点の特性や周辺環境の影響を踏まえた原因分析を進めるとともに、測定項目や評価方法について実態に即した整理を行う ・測定機器の点検・管理を徹底し、安定的な測定体制の確保に努める
	【参考指標】					
	市内の狭あい道路の割合	C	8.81% (2025年度)	7.36% (2029年度)	・特になし	・府中市狭あい道路の拡幅に関する条例の施行に伴い、狭あい道路拡幅整備工事は概ね順調に実施しているが、実績値と参考値には開きができてしまっている。そのため、生活環境の向上を図るとともに安全で快適な災害に強いまちづくりの実現を目標に、当該制度を利用していただくため、広報ふちゅうへの掲載や市イベントでの啓発活動を行うとともに、エリアを絞って狭あい道路に面する宅地に対して、パンフレットのポスティングを実施することで市民への周知を行っていき、実績値の向上を目指す
基本方針5 協働・連携のための環境が整ったまちを目指します	【参考指標】					
	府中水辺の楽校参加者延べ人数 (開催回数)	B	61人(3回) (2025年度)	350人 (2030年度)	・河川工事に起因する事業の中止	・河川環境の変化に応じた活動内容の見直し ・運営協議会メンバーや協力団体の特色を活かした事業継続 ・中学生サポーターの参加拡充

※【評価】
S：目標以上に進んでいる
A：目標どおり順調に進捗している
B：やや遅れが生じているが、概ね順調に進捗している
C：遅れが生じている。このままでは目標達成が難しい